

2017年2月10日

高等教育キーパーソン各位

地域科学 KKJ セミナーニュース 444
高大接続・大学入試の再構築と新パラダイム
～記述式は個別試験で／共通テストはベース継承～
ご参画・ご派遣のお願い

新共通試験が大日程優先で、スタートせんとしております。大学入試のあり方は中等教育に、次代の青年たちの育成に重大なる影響を及ぼします。国大協のみならず、私大連・私大協・私短協・公大協等及び大学・大学人たちは、しっかりと政策形成プロセスで参画すべきと考えます。

センター試験の廃止審議に当たって、25年余の検証がありませんでした。P-D-C-A サイクルが、回っておりません。

2015年4月と12月の2回にわたり、前大学入試センター副所長 試験・統括官の荒井克弘氏にQ&A方式で論点整理いただいたエッセンスを再掲いたします。(詳細は追伸にありますHPをご参照ください)

Q1. 6教科30科目は多すぎるか？

A. 98%が進学する超ユニバーサル段階の多様な高校教育の到達度の判定にあたって、決して多い科目数ではありません。しかも高校学習指導要領に対応した科目数です。

Q2. 複数回の実施は必要か？

A. 複数回の実施のためには“成績の等化”が必要ですが、現センター試験では出来ません。また、試験間に伸びた学力を評価する調整方法はあります。

Q3. 三位一体改革の順序性は？

A. 高校と大学は歴史的な経緯の中で、教育目的・方法も異なります。位相にズレがある教育接続となる大学入学選考においては、固有の教育的・選抜的なプロセスを必要とします。高校及び大学の教育改革を先行させ、その後に入試改革を進めるのが現実的であります。

Q4. 共通学力試験と個別学力試験の役割分担は？

A. 今次の提案では共通試験に過重な負担を強いております。入試の主体は各大学であり、最終的には、大学が説明責任を果たせる実効性ある制度を練りあげていく必要があります。

Q5. 記述式の設問を共通試験に入れるべきか？

A. 60 万人余受験する共通試験に、記述式設問を加える必要はありません。従来通りに個別試験段階で実施すべき事柄です。

この間、KKJ としてもセミナー及び政策直言コーナーにおいて、コアパーソン各位の講義と Q&A で情報発信をして参りました。そして、重要なターニングポイントといえるこの 3 月に 4 人のベスト講師による本セミナーを開催いたします。最終的には、あくまでも、個別大学としての見識が問われております。

是非とも、本セミナーにご参画賜わり、4 氏の貴重な論展を受信いただくとともに、質疑応答・意見交換の「場」として、ご活用くださいませ。

つきましては、ご多用の折とは存じますが、貴学のキーパーソン各位に、ぜひともこの機会にご参画・ご派遣を賜りますよう、お願い申し上げます。

また、ご関心の各位にご転送・ご案内いただけましたら、幸いです。パンフレット版は、下記よりご覧いただけます。

[高大接続・大学入試の再構築と新パラダイム](#)

追伸) 下記のHPをご高覧願います。

“政策直言” の場 Vol.6

[「入試センター試験と新学力評価テストの検証のポイント」](#)

“政策直言” の場 Vol.8

[「高大接続・大学入試改革の論点整理 \[Q&A\]](#)

～センター試験 25 年余の検証を踏まえて～」